政治しずおか

富士大淵工業団地 完成

県試算 経済効果90億円

市に譲渡 操業後170億円

県企業局が富士市大淵で造成していた「富士大淵工業団地」が完成し、同市への10月中の譲渡が決まった。整備に伴う経済波及効果は90億円と試算。進出を予定する6社が操業した場合は波及効果を年間170億円と見込んでいる。

富士大淵工業団地は新東名高速道新富士インターチエンジから北西約2キロの交通至便な場所に立地し、富士山フロント工業団地（17区画）南に隣接する。全体事業費約15億円をかけ、用地約5・7ヘクタールに6区画を整備した。

同事業は県と市が役割分担した「セミオーダーメード方式」を採用した。進出企業決定前に県が造成に着手して市に一括売却する。

市は「富士山フロント工業団地（第2期）」として企業誘致を展開。2021年度の公募で県内外の12社から応募があり、チョコレートメーカーや自動車部品メーカーなど県外4社を含む6社の進出が決まった。

県企業局によると、造成工事と進出企業による工場建設などの直接投資額は約70億円。県税増収効果は約1・3億円を見込む。新規雇用は180人を超える見通し。6社の操業に伴う県税増収効果は毎年約1・8億円増と見積もった。

団地造成工事は当初の予定より3カ月早い7月に完了した。県によると、合筆に伴う事務処理や測量までの業務の手順を見直し、事業期間を短縮した。高額で騒音を伴う掘削工事を減らし、富士山周辺の砂防発生土の無償提供を受けることで事業費削減を実現した。

（政治部・青島英治）

造成工事が完了した富士大淵工業団地＝5月、富士市大淵（富士市提供）

自転車・徒歩の利用促進へ

駿河湾フェリー

来月までキャンペーン

一般社団法人ふじさん駿河湾フェリーは10～11月、清水―土肥港間を結ぶ駿河湾フェリーで自転車や徒歩の乗船客を対象にキャンペーンを実施する。秋の行楽期に合わせたサイクリストの利用促進や、脱炭素社会実現に向けた公共交通機関の利用を呼びかける。

自転車の乗船客向けには、フェリーを使い駿河湾を一周するサイクリングコース「するいち」をPRするため、サイクリストユーチューバー「けんたさん」の体験動画を公開。乗船記念に船内で販売する「御船印」にも、新たにサイクリストの図案を採用した。11月1日からは、海上の「県道223号」のロゴ入りサコッシュを自転車の乗船者先着1千人にプレゼントする。

徒歩乗船者対象のキャンペーンは、11月19日に静岡鉄道としずてつジャストラインが脱炭素社会実現に向け実施するイベントに合わせた。静岡鉄道が電車や路線バスの運賃を無料とするのに合わせ、フェリーも同日の全便で徒歩乗船客の運賃を無料にする。

キャンペーンの問い合わせは同法人＜電054(340)5223＞へ。

（政治部・杉崎素子）

都道府県ファイル

福産品協力企業募集

県は10月末時点で、福産品の購入を通じた地域の経済的な応援を目的とする「ふじのくに」の人1品運動協力企業・団体を募集中。加入企業・団体は公開する。

菓子やコーヒーなどを組わせた「ティーセット」、加工食品を含む福連携セットなどの3千～4千円台のコースを用意。

8月末時点で、企業・団体名は県ホームページで公開する。